

胸腹面正中には後方へ狭まる三角形の顕著な突起があり、後方は前脚基節に挟まれる(図4B)。中脚基節は左右大きく離れ、その間は前方へ向かって幅広い突起となっている。突起の先端正中には三角形に近い小さな凹陷があり、前胸腹板突起の先端部が収まるようになっている。

中脚後方の中胸腹板には浅いくぼみがあり、中脚を収納した場合にはぴったりとおさまって、腹面の平面が保たれるようになっている(図4C, D)。この部分の中胸腹板には、中脚脛節ばかりでなく附節が収まる凹陷までも用意されている。この凹陷は外側部分で、上翅側縁の腹面へ回り込んだ部分へも達している。図4Dの最も右側の節片が上翅部分である。後脚後方にもやはり同様の、収容のための凹陷がみられる。この凹陷は第4, 5腹節腹板にまたがっている。

考察

本種はいくつかの種の広葉樹樹液に集まることが知られているが、イイギリからの採集記録は初めてと思われる。採集記録が1例ではなく、複数であることから、本種がイイギリの樹液に集まることが確実と思われる。

本種成虫について走査型電子顕微鏡を用いて観察を行ったところ、以下の点が明らかになった。1) 本種の背面、前胸背から上翅背面にかけて、浅い円形の粗い点刻がまばらに散布される。2) 点刻内部(端部)には両側棘状または鋸歯状の短毛1本を生じている。3) 本種の腹面、中脚と後脚後方には、それ

ぞれの脚の脛節および附節を収納するための、浅いが非常に輪郭のはっきりした凹陷を生じている。

謝辞

本論文を校閲いただき、有益な情報をお寄せいただいた、愛媛大学の吉富博之博士に感謝の意を表す。本研究の一部は科研費上記領域の計画研究「バイオメテックス・データベース構築」(課題番号: 24120002; 代表者: 野村周平) および JST 受託研究費「階層的に構造化されたバイオメテック・ナノ表面創製技術の開発」の助成を受けている。

引用文献

- 野村周平・平野幸彦・斉藤明子・上野俊一・渡辺泰明, 2000. 皇居の甲虫相. 国立科学博物館専報, (36): 185-255.
平野幸彦, 2004. コウチュウ目, ヒメトゲムシ科. 神奈川昆虫談話会編 神奈川昆虫誌 II, p. 555.

(2013年11月22日受領, 2014年2月7日受理)

<追記>

脱稿後、下記の報文に同種の針葉樹樹液からの採集記録があることを知ったので、追記しておく。本報文は千葉県から本科、本種の初記録であり、君津市の2地点から本種6個体を採集、うち2個体はモミの樹液に来ていたとのこと。

斉藤明子・鈴木 勝, 2013. 東京大学千葉演習林で採集した甲虫類(1). 房総の昆虫, (51): 38-40.

【短報】小笠原諸島向島におけるヨツモンハナノミの記録

ヨツモンハナノミ小笠原亜種 *Variimorda ihai boninensis* Nomura は父島と母島、それに父島列島兄島 (Sugiura *et al.*, 2009) から知られているが、筆者らの1人、永野は母島列島の向島から採集したので、本島からの初めての記録として報告する。

1♂, 小笠原群島向島, 19-VI-2012, 永野裕採集(神奈川県立生命の星・地球博物館収蔵予定)。

この個体は、林内のギャップにおいて、ヤロード、アカテツ、コヤブニッケイ、オガサワラビロウ等の葉をスウィーピングした際に得られたものである。

なお上記は、環境省による「平成24年度小笠原群島母島及び離島の希少野生動物植物生息生育状況等総合調査」で採集されたものである。調査を実施するにあたりお世話になった、環境省小笠原自然保護官事務所の山下淳一氏、自然環境研究セン

ターの岸本太郎博士にお礼を申し上げる。

引用文献

- Sugiura, S., T. Tsuru, Y. Yamaura, & H. Makihara, 2009. Small offshore islands can serve as important refuges for endemic beetle conservation. *Journal of Insect Conservation*, 13(4): 377-385.

(永野 裕 130-8606 東京都墨田区江東橋 3-10-7 (一財) 自然環境研究センター)

(高桑正敏 250-0031 小田原市入生田 499 神奈川県立生命の星・地球博物館)